

## 仏領期カンボジアの領外出身理事官府官吏についての一考察

Official servants in Résidences originating from outside the French  
Protectorate of Cambodia

神田真紀子 Makiko Kanda

東京大学大学院総合文化研究科・教養学部附属

東アジアリベラルアーツイニシアティブ

The University of Tokyo, Komaba Graduate school of Arts and  
Sciences, College of Arts and Sciences, East Asia Liberal Arts  
Initiative

### 要旨

保護領期カンボジアの行政におけるベトナム人官吏の進出は、その後のカンボジアの政治的言説の中で批判の対象となってきた。しかしながら、ベトナム人の特定に注意を払い、出自を検討した実証的研究は限られている。本稿では、「カンボジアのベトナム人」の多様性に注目し、主にカンボジア国立公文書館所蔵のインドシナ人人事関係文書の分析を行う。なかでも確認の取れた領外出身者のうち1930年代後半のカンボジアの移民の動向を射程に置き、とりわけヴィンロン出身者に着目している。

The expansion of Vietnamise official servants in the French protectorate of Cambodia has been criticized in Cambodian political discourse. So far, there has been limited research to determine the birthplaces of these servants based on documents that identify their nationality. This account analyzes the documents regarding Indochinese personnel matters in the National Archives of Cambodia, focusing on the diversity of the Vietnamise in Cambodia. This report particularly considers the cases of Indochinese immigrants in the late thirties, with regard to confirmed cases of officials originating from outside



Cambodian territory, and pays special attention to immigrants from the Vinh Long area.

キーワード：保護領カンボジア，ベトナム人官吏，ヴィンロン，相互扶助会

Keywords: Protectorate Cambodia, Vietnamese official servant, Vinh Long, mutual aid associations

## はじめに

植民地期の初期クメール<sup>1</sup>民族主義の潮流では、他民族のカンボジア社会進出への批判が行われてきたといえる。しかし、批判の対象のひとつとなった、植民地期の移民としての「アンナム（ベトナム）<sup>2</sup>人」は多様な出身背景を持ち、ベトナム本土から移住したもの、カンボジア生まれのもの、そして混血の可能性を加えれば、その定義は一様には難しい。本研究は都市部のベトナム人自身が模索した、移民共同体の形成と人的紐帯の実相にせまる、社会史的アプローチを目指している。

本稿では上記の問題意識を前提に、批判の対象となったベトナム人官吏の、移民第一世代の動向から考察を行いたい。まず、「ベトナム人」を特定している当時の行政史料をもとに、各理事官府の勤務状況を分析する。そして、現地人<sup>3</sup>官吏の結束を測る目安として、同業者会でのベトナム人のイニシアティブを検討すると同時に、カンボジア領外から赴任した現地人官吏の出身地を特定し、登用の空間的広がりを分析する。ただし、赴任の動機にかかわるものの官吏の教育背景について考察は広げず、赴任後の史料開拓に焦点を絞っている。

具体的には、第1章第1節で関連する先行研究を整理し、第2節でカンボジア理事官府におけるベトナム人官吏の言説について、主にベトナム語新聞の意見を、植民地政権の意見、クメール語新聞記事とあわせて概観する。第2章第1節では資料の説明を行い、第2節でベトナム人官吏勤務の実例、カンボジア理事官府職員の民族的区分に迫り、とりわけ1925年の各理事官府職員の勤務状況を検討する。第3節では、第2節で検討した問題点を踏まえ、民族区分ではなく現存する履歴

史料群から、トンキン、アンナム、コーチシナ出身者の地域的な傾向を分析する。第 4 節では、注目できる出身地のうち、ヴィンロン出身者のケースを取り上げ、30 年代後半の都市部の移民の動向とあわせ考察を行う。

## I. 章 カンボジア理事官府官吏

### 1. 節 先行研究

植民地期のカンボジアのベトナム人移民共同体について包括的な概観を示したキイ・パンラの研究は、社会学、人類学、歴史学を横断する項目ごとの整理によって、カンボジアのベトナム人移民の主要な問題を網羅しているかのようである。植民地化の過程、その特性の考察を通じ、地方、都市の主な職業ごとのベトナム人コミュニティについてフランスの文書館史料を使って読み解き、その民族、文化宗教的な個別性を、複合社会の構図として説明している。[Khy 1974] キイによれば、カンボジアへのベトナム人移民は、「漁民」、「農民」、「都市民」、「単純労働者」そして北部出身のプランテーション労働者に大別され、都市民は南部ベトナム出身者が多数を占めたとされる [Khy 1977: 49]。本稿では、キイのいう「都市民」のうち、社会的エリート層、つまり、知識人や有識者などの指導的階層に着目し、とりわけ、植民地行政に勤務する下級官吏について関心を注いでいる。

ここで、カンボジアの現地人官吏についての言及を見てみたい。世界大戦期のカンボジア社会発展について研究を行ったソーン・ソムナーンは、植民地中央政府の整備について整理し、1910 年代初頭の現地人官吏はベトナム人が多数であったとしている。[Sorn 1995: 30] 2 章第 2 節で引用するアラン・フォレストの研究では、植民地政府のベトナム人官吏登用の優勢について、具体例が挙げられた。本稿で分析対象とする各理事官府職員についても、1904 年の地方理事官府と郵便電信局、1913 年の市役所、1915 年から 1916 年の地方理事官府の民族別職員数を示している [Forest 1980: 459-460]。

フランス植民地帝国におけるインドシナ統治を分析し、現地人官吏制度を詳細に検討した岡田友和は、現地人上級職官吏の登用と雇用を解明し、インドシナ中央政府のベトナム人官吏の着任について、インドシナ領 5 地域を包括する研究を

行った。岡田によれば、トンキン出身ベトナム人技術官はコーチシナへの赴任の傾向が顕著であり、カンボジア赴任のケースもあったと指摘している[岡田 2010: 19]。また、植民地期のベトナム人のインドシナ内外への「旅」の重要性に注目したクリストファー・ゴシャは、インドシナ人としての自覚を促した、植民地期のベトナム人の積極的なインドシナ内外への旅の重要性を指摘している。インドシナ領内のベトナム人官吏転任について、カンボジア理事官府職員同業者会 (Association amicale du Personnel indigène des résidences du Cambodge) にも着目し、インドシナのベトナム人ネットワークの自覚について述べた。なかでも、会員の政府への補助金要求においては、インドシナ連合の他国訪問での有給休暇の享受や、「インドシナの家族」の他の兄弟との交流について言及している[Goscha 1996: 260]。ペニー・エドワーズは、このゴシャの言及について、同会の名称が 1938 年に「現地人」から「インドシナ人」に変更された背景を指摘した。さらに、1932 年にクメール人によって設立された同会は、その後、クメール人自身による各種団体の隆盛を受け、ベトナム人が占めるようになった可能性を示唆している[Edwards 2008: 222]。一方、ベトナム研究においては、エマニュエル・ポワソンによって、グエン朝から植民地期の北部現地人行政と官吏制度について研究が進められた。ハノイ第一国立公文書館所蔵トンキン理事官府文書、ナムディン理事官府文書、ハドン理事官府文書の各コレクションを対象に数量的分析が展開され、現地行政官吏の、立身過程、出自分布、立身過程を広範かつ詳細に分析している[Poisson 2004]。

1990 年後半にカンボジア国立文書館の整備が進み、外国人に門戸が開かれると、植民地期の実証的研究は大きく前進した。エドワーズ[Edwards 2007]や笹川秀夫[笹川 2006]は、クメール人ナショナリズムの自己形成の見地から、批判の対象となる他者理解を詳細に研究し、ベトナム人についても言及している。一方、近年は履歴そのものを扱う詳細な研究も開拓されてきた。植民地期のカンボジア行政の成立過程について議論を展開した高橋宏明は、政府官僚について履歴についての研究を行い、植民地化初期の閣僚評議会クメール人(クメール系)大臣 7 名の経歴を分析している[高橋 2008]。さらに、植民地期の司法制度の研究領域においても、傘谷祐之は司法大臣 9 名の経歴について分析を試みている[傘谷 2016]。また、北川香子は、1930 年初頭まで植民地政権で勤務した、メコンデルタ出身の

クメール人通訳官の活躍の事例を履歴と合わせ詳細に検討し、彼らの「カンボジア」の空間的広がりへの示唆に及んだ〔北川 2016〕。

本稿に新しさがあるとするれば、ベトナム人共同体の史料からも当時のカンボジア社会を照射し、ベトナム領からの官吏赴任の傾向を、広範な史料群から分析を試みた点にあらう。ただし、国立公文書館は長い戦乱の弊害を経ているとされ、数量的な分析は現存する史料からの作業を前提とする。プロソポグラフィ研究は史料の質と数量に影響されるが、本稿ではこのことは常に念頭に置かれた。一方で、本テーマは、その後の民族主義の論調や、歴史に自ら名乗りを挙げなかった人々も対象となる点で、個人ファイルの扱いにおける慎重さも問われるなど、課題にも直面したことも記しておく。

## 2. 節 ベトナム人官吏についてのさまざまな意見

1936 年にクメール人民族主義者たちによって発行されたクメール語新聞『ナガラ・ワッタ (*Nagara Vatta*)』では、初期のクメール人民族主義者の比較的自由的な論調が展開された。73 号「クメール人の最も恐れること」では、権力における他民族支配を批判し、ここ 1 年多くの多民族がアンナムとトンキンから入植していること、その手段は「一つは商業によって」「もう一つには政府によって」であるとした。ただし、商業においては中国人やフランス人の進出も見られ、ベトナム人だけの領域ではなく、クメール人も日々商売に目覚めているが、クメール人が一番恐れているのはこの「政府」における進出であった。特に官公庁における多民族の進出は目覚しく、クメール人の活躍は非常にわずかで、2 割、多くとも 3 割程度の人員を占めるにすぎないと警告している〔*Nagara Vatta* 73 号 1938.6.11〕

仏領政権側のベトナム人雇用についての意見を、インドシナ総督アレクサンドル・ヴァランヌの 1927 年の演説録に見ることができる。当時インドシナ現地人の不満は、主たるものはベトナム人のものであり、彼らの不満を解消すべくフランスは大学を設置し、更にハノイ、サイゴンにおいてリセやコレッジを開校してきた。そして、「更には、我々（フランス）は、フランスによる教育を受けた若いベトナム人の活躍を保証するために、彼らの出身国外の行政ポストをあて、カンボジアやラオスの地方行政にベトナム人官吏を入植させてきた〔*Conseil de Gouvernement de l'indochine* 1927: 22〕」とし、政府によるカンボジア赴任の働きか

けを挙げている。

ベトナム人社会でのカンボジアのベトナム人官吏への言及はどうであったろうか。植民地後期にカンボジア滞在経験を持つレー・フオンによれば、植民地期のコーチシナの女性は、プノンペンの官吏 (công chức) を夫にすることを好んだとされる [Lê 1969: 65, Lê 1971.19]。また、植民地期カンボジアのベトナム語新聞の論壇では、ベトナム人官吏への批判について述べられた。サイゴンで発行され、プノンペンでも読者を獲得した『コン・ルアン (Công Luận)』紙は、1934年6月12日よりカンボジア版紙面『コン・ルアン・カンボジア版 (Công Luận Cao-Miên)』が加わった。同年のタイン・チュック (Thanh Trục) による論説「クメール・ベトナム両関係は改善させなくてはならない (Hai giới Nam-Miên cần phải giao-thiện lại)」では、カンボジアはクメール人の国であるという問題が、一月あまり非常に論壇を沸かせたと述べている。そして、クメール人たちの要求は、各政府機関 (ở các ty, các sở) に勤務するベトナム人を削減するよう、政府に要求するに及んだとされた [Công Luận 1934.6.12]。このほか、サイゴン発行の『ディエン・ティン (Diễn Tin)』紙も、カンボジア版紙面をもっていた。1935年のシー・タム (Si Tâm) 筆による、「クメール人と官界 (Người Cao-Miên với quan-trường)」では、政府のクメール人優遇に対し、ベトナム人の視点でクメール人官吏が少ない理由が述べられている。シー・タムによれば、クメール人は一般に生計を立てることを重視し、読み書きができるようになれば社会にでて実業を学ぶ傾向があった。そして、「才のあるものは試験を受け官吏を目指し、受かればよいが、落ちればやめて大商店などで働いた。そのため学力が低く官吏業界 (trường quan-lại) では、いつも才力や責任能力において遅れをとり、ベトナム人に劣ってしまう。」とし、官吏として立身しても劣勢の立場に甘んじる、さらに勤務習得が劣る、学歴の修了証書を持つものが少なく、カンボジア王国政府での勤務への志向があるとも述べた。これには、1935年当時の経済的苦難が背景にあったようで「政府機関の各事務所の役職や経済界を自分たちが占めることによって、今度は政府にベトナム人雇用の制限が要求されたため、離郷者<sup>4</sup>たちが失業した」と考えていた。つまり、シー・タムによれば、当時のベトナム人の失業問題は、「政府の各事務所機関では地元民 (người Thổ-Quốc) が日増しに増えているのがわれわれには明らかである」ために引き起こされたと理解していた。 [Diễn tin 1935. 3. 21]。

1930年代にはいと、国内での教育機会の発達に伴い、ベトナム人や中国人の共産主義への関与から、理事長官ティボドー（Thibaudeau）の改革によって多くのクメール人が行政機関に登用されるようになった [Sorn1995,Tome I: 152]。当時のフランス語紙では、1937年10月25日の現地人評議会における理事長官ティボドーの演説「カンボジア人<sup>5</sup>たちのカンボジア Le Cambodge aux Cambodgiens」が掲載されている。ここでは政府の威信を高めるために、クメール人に批判される政府のベトナム人雇用の優勢に触れ、クメール人の登用について述べている [La vérité.1937.10. 29]。また、このようなクメール人の優遇に対して、ベトナム人の言論にも反響が見られる。一例ではあるが1939年『ディエン・ティン』紙「カンボジアの越僑の地位 (Địa vị của người Việt-Kiều ở Cao-Miên)」において、カンボジア政府に仕えるベトナム人 (người Nam) は多いが、近年カンボジア理事長官は、現地人 (người bản xứ<sup>6</sup>) が満足いくようにはからい、現在ではいたるところで現地人を越僑より多く使っていると訴えている [Diễn Tin 1939.8.31]。

このようなカンボジアのベトナム人官吏の窮状にかかわらず、1945年のベトナムの8月革命前夜にも、その社会的地位は政局の変化にも変わらぬ高い地位を保っていた。ベトナム語新聞『トイ・バオ (Thời Báo)』は、医師ヴー・キム・ヴィン (Vũ Kim Vinh) 弁護士ホアン・キム・ハー (Hoàng Kim Hà)、弁護士ズオン・ミン・チャウ (Dương Minh Châu) そして、ヴー・スアン・ダオ (Vũ Xuân Đạo) のグループによって、多数の愛国的官吏 (công chức) の後援を得て1945年に発行された。『トイ・バオ』は、公開された愛国越僑運動の宣伝のために、国を失った民族の独立と自由への渴望の喚起を主とする新聞であったとされ [Câu Lạc Bộ Truyền Thống Kháng Chiến khỏi Việt Kiều Campuchia Yêu Nước.2004 : 22]、同紙には広告掲載は見られない。

『トイ・バオ』には、官吏について書かれた記事がある。8号「どのように団結するのか？」では、ベトナム領での独立の気運高まるなか国民 (quốc dân) の確固たる団結の必要性を唱えるものの、越僑は政治政党の立党は行わず、また必要なものではないとし、そのためカンボジアの各越僑の権益を守るためには、職業組合を組織するべきとした。大まかには官吏、技術者、商家、手工業者、労働者などの同業会を組織し、なかでも法律や世の中の時局に明るい学識者である官吏 (viên chức) が先んじてカンボジアの事務職員同業者会を組織しており、カンボ

ジア唯一の越僑精神に至るべく、各界の指導的立場にあたるのが望ましいとしている [Thời Báo 8 号 1945.7.3]。さらに、43 号 L.K. 筆による「公務員組合 (Liên đoàn công chức<sup>7)</sup>)」では、目的を「国家 (Quốc gia)」に奉仕できるひとつの勢力にするためとするが、会は政治参加せず、いかなる政党にも属さないものの、「祖国 Tổ quốc」の独立に寄与する真摯な政党活動は応援すべきとする。カンボジアでの「国民」指導者はすべて官吏であるため、越僑官吏は新潮流に従い団結し、「国家」に奉仕する有能な連合会 (Liên đoàn) となるべく促している [Thời Báo 1945.8.20]。

いずれの記事にも、官吏に対する来るべき時代における社会的指導性への強い期待が見られ、同時にさまざまな出自の連帯には、同業者団体の組織化を重要視していた。本稿では、「越僑」の含有する範囲は検討を加えていないが、1945 年の『トイ・バオ』の論調では、ベトナム本土の政治的気運を反映して、トンキン、アンナム、コーチシナ全土を含む出身者を包括していたと考えている。また、ベトナム人の論壇では、官吏が植民地政府の協力者であるという批判的論調は見られなかった。このことから、クメール人とベトナム人にいずれにとっても、植民地官吏の社会的地位の高さは認められていたといえる。

## II. 章 理事官府の領外出身官吏

### 1. 節 史料について

本節では、カンボジア官吏の詳細について、カンボジア国立公文書館 (Archive National du Cambodge) 所蔵のカンボジア理事官府文書 (Fonds de la Résidence Supérieur du Cambodge: RSC 1863-1954) を主に参照した。この文書の索引 (Index) において、C 人事 (C. Personnel) 中、C.3 Personnel Indochinois du Gouvernement et Résidences (理事長官府インドシナ人職員) で抽出されている人事関係文書を主な分析対象としている。このほか「C」の分類中、各公共機関の人事が含まれる C4 (Personnel Indochinois des Divers Services) はベトナム人の勤務の可能性は高い。ただし、医療機関者や教職員のように各学校、病院機関に散らばり、その勤務期間もさまざま、自警団や軍隊のように秘密性や流動性のある勤務形態は一様に掴みにくい。それに対し C3 に分類された各理事官府の勤務者は、特定の勤務地で



就業し、各地方理事官府を横断的に転勤する傾向がみられた。ただし、出生から 100 年を経過しない履歴もあり、個人情報としての取り扱いへの配慮が必要であった。まず、当時法廷納本された各種出版物（新聞記事、各種アソシエーション規約、内規、）に現れる、氏名、民族名の記載は、すでに公開されている情報とし引用をおこなった。第 2 節では、民族の特定を行政文書に依拠し民族（ナショナリティ）を特定している。また、人物照合は刊行物で行ったが、氏名は記載しなかった。第 3 節では、史料上の制限も合わせ、民族の特定は行わず出身地の検討のみを行っている。特筆すべき点として、本稿ではベトナム人風の氏名や使用言語で民族的特定を行わず、行政上の民族区分が明らかなもの、あるいは主体的に民族名を冠するケースを主に取り扱っている。

## 2. 節 1925 年の民族別勤務者の事例

各理事官府で働く現地人官吏の内訳はどのようなであったであろうか。ソーンによれば、1911 年当時の各理事官府官吏は、多くがベトナム人であったとされる [Sorn1995,TomeI: 30]

また、フォレストによると、1910 年代半ばまでの植民地官吏の民族別内訳が明らかにされ、1904 年地方理事官府 46 人の現地人官吏のうち 22 人がベトナム人で、総数の 28%を示している。電信電話局では 23 人の職員のうち、3 名がフランス人、10 名がベトナム人であった。1913 年にはプノンペン市役所で現地人雇用者 16 人のうち、14 名がベトナム人(87%)、2 名がクメール人である。1915 年の地方理事官府でバタンバンでは 21 人中 11 人（52%）がベトナム人、コンボンスプーでは 14 人中、8 名（57%）がベトナム人、コンボンチュナンポーサットでは 19 人中 13 人がベトナム人(68%)、タケオは 16 人中ベトナム人 10 人（62%）コンボントムは 12 人中ベトナム人 7 名（58%）1916 年のコンボンチャムで 18 人中ベトナム人 8 人(44%)とベトナム人職員は高い割合を占めている [Forest 1980: 459-460]。

ここで 1925 年の事例を見てみたい。1925 年はコンボンチュナン州において、重税に抵抗する民衆のバルデス領事暗殺事件が勃発し、領事と共に通訳官と民兵も民衆に殺害されるなど、植民地政権への感情が事件化した年である [Chandler2008: 191-193]。この年の各理事官府のベトナム人官吏の勤務状況が分かる行政文書がある。プノンペン 1925 年 6 月 23 日付総督ボードワン通達 102 号（以下通達 102 号）

では、各理事官府の、書記官、通訳官勤務者の詳細を、名前、年齢、家族状況、ナショナルリティ、入所年、身分（正規、臨時の場合その期限）辞令決定の番号について報告を求められた〔ANC.RSC.10642〕。表 1 は報告より作成した、職員数とベトナム人比である。報告された記載のナショナルリティに従えば、各理事官府の全職員のうち、裁判所（Justice）勤務者を除き高い割合でベトナム人が勤務していたことがわかる。

一方、カンボジア理事官府現地人友愛会（Association Amicale du personnel Indigène des Résidences du Cambodge 以下 AMIC）<sup>8</sup>の 1924 年認可の規約では、会員リストに記載された会員数は 157 名で、会員の勤務地は全国に渡った。24 年発効の規約集巻末のメンバーリストは理事官府ごとに記載され、通達 102 号報告と照合すると、該当する多くの職員が会員になっていた。一年の差異はあるものの、通達 102 号の報告と合致する会員は民族（nationalité）を確認することができ、記載のない 1 例を除き、表 2 の各地方の友愛会代表者はすべてベトナム人であることが分かった。

表 1 カンボジア理事官府現地人職員友愛会中のベトナム人会員

理事官府	総会員数	うち履歴確認できた会員	ベトナム人会員数	クメール人会員数
Ville de Phnom Penh プノンペン市	1	不明	不明	不明
Battambang バッタバン	15	11	5	4
Kampong カンポット	9	9	6	2
Kandal カンダール	3	2	2	0
Kompong Cham コンポンチャム	11	不明	不明	不明
Kompong Chunnang コンボンチュナン	7	6	6	0
Kompong Spew コンポンスプー	6	6	3	2
Kompong Thom コンポントム	10	8	2	4
Kratie クラチエ	6	5	3	1
Prey Veng プレイヴェン	11	7	6	1
Prusac プーサット	6	6	5	1
Svai Rieng スヴァイリエン	8	7	5	2
Stung Treng ストゥントウレン	1	1	0	1
Siem Riep シエムリエプ	不明	不明	不明	不明

Takeo	9	9	7	2
またその他に確認されたプノンペンの政府局と法務省の内訳は以下の通り				
1er Bureau 第一事務局	4	2	1	1
2e Bureau 第二事務局	2	2	1	1
3ème Bureau 第三事務局	8	6	3	1
4ème Bureau 第四事務局	11	7	5	2
Justice 裁判所	記載無	記載無	記載無	記載無

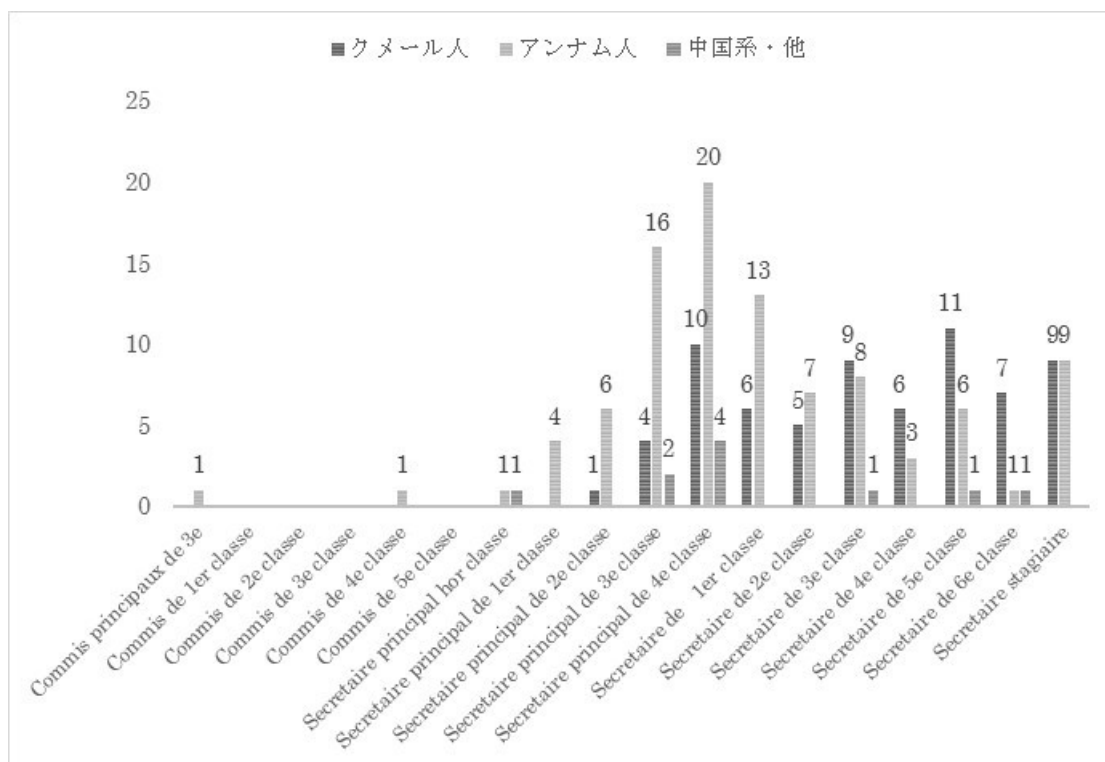
[ANC.RSC.10642 ,AMIC 1924:14-18] 規約巻末会員リストを確認した。

表2 カンボジア理事官府現地人職員友愛会代表者の役職

地域	役職
バタンバン理事官府	Commis principal de 3e classe
カンポット理事官府	Secrétaire principal de 2e classe
コンポンスプー理事官府	Secrétaire principal de 4e classe
コンポンチャム理事官府	記載無
クラチエ理事官府	Secrétaire principal de 2e classe
コンポンチュナン理事官府	Secrétaire principal de 3e classe
ポーサット理事官府	Secrétaire principal de 4e classe
コンポントム理事官府	Secrétaire de 1er classe
プレイヴェン理事官府	Secrétaire principal de 2e classe
スヴァイリエン理事官府	Secrétaire principal de 4e classe
タケオ理事官府	Secrétaire principal de 1er classe
シエムリエブ理事官府	Secrétaire principal de 4e classe

[ANC.RSC.10642 , Association amicale du Personnel indigène des résidences du Cambodge 1924:19] カンボジア理事官府現地人職員友愛会規約より確認。

図表 1 1925年各理事官府官吏の民族別内訳



[ANC.RSC.10642 報告より筆者作成]

上記のように、通達 102 号への回答報告中に記載された民族名 (nationalité) に従えば、各理事官府の全職員のうち、裁判所勤務者を除き高い割合でベトナム人が勤務していたことがわかる。正規職員を階級別に民族分布をみると、25 年報告時でベトナム人の在職地位は図表 1 より、平均的にクメール人職員の上部に在職していることがわかる。第 2、第 3 事務局ではベトナム人の勤務率が高く、金銭管理部門にベトナム人が登用される傾向があった。付け加えるならば、ベトナム人とクメール人が植民地政権下のもと第三の言語で業務を行った事は、新しい経験であった。彼らが互いのコミュニケーションをどのように図っていたか、その一例としてスヴァイリエン理事官府の 27 年の報告を見てみたい。会計担当はクメール語を話し読み書きできる必要性から、各現地人職員の使用可能言語が記載されている。ここでは現地人職員 11 名のうち、「4 名のクメール人(原語 Cambodgiens)は明らかに彼らの言語を話し、読み、書く。うち 3 名はベトナム語を大体話す。しかしベトナム語を読み書きするものはいない。」また「7 名のベトナム人は、明らかに彼らの言語を話し、読み、書く。そのうち 5 人はカンボジア語を大体話すことができ、2 名が読み書きできるとされた [ANC.RSC.10642] 」。このように、

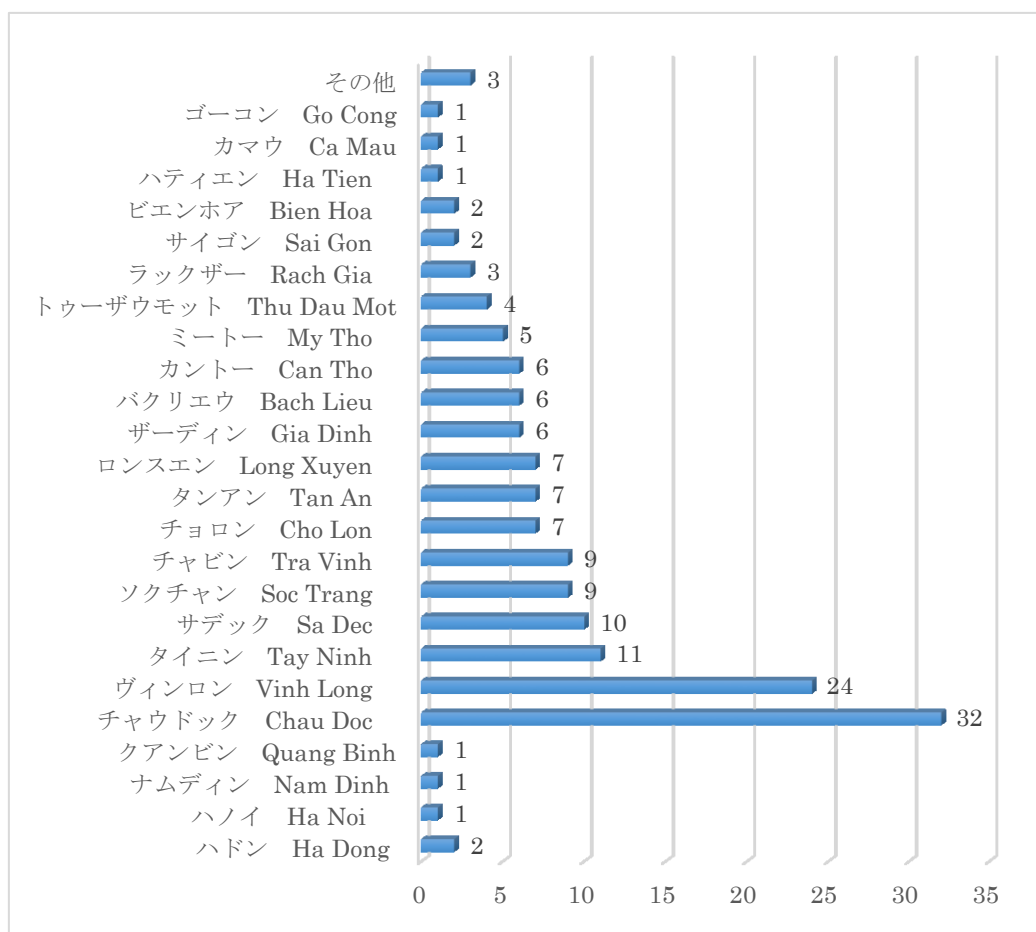
国境地域の理事官府では 3 名の現地人職員が互いの母語を介さないものの、現地人職員のコミュニケーションがフランス語のほか、互いの母語を使用していた可能性も示している。

### 3. 節 官吏数と出身地傾向

本節では、カンボジア国立公文書館（ANC）において、C 人事（C.Personnel）中、C.3 理事長官府インドシナ人職員で抽出されている人事関係文書を主な分析対象とし、出身地の傾向を確認した。公文書館 C3 ファイルについて、全ファイルの出身地を探索した研究例はない。この C.3 に分類されている、2013 年時点で現存する 738 ファイル（dossiers、1883 年～1961 年）中、保管開始年が 1953 年末を超える 1 ファイルを除く 737 ファイルを検討した<sup>10</sup>。出生地の確認には、履歴書類、出生届、結婚証明書を主に参照し、その結果、理事官府勤務者のうち領外（トンキン、ベトナム、コーチシナ、他）出身者は 161 ファイル（2013 年の C3 全ファイル約 21.8%）であった。

各地各理事長官府で勤務する公務員の総数は、時系列的な記録にあたれなかったものの、カンボジア理事官府現地人職員友愛会の作成した 現地人職員年功序列リストを参考にできる。5 年間のデータによれば、1938 年 360 名、1940 年 345 名、1941 年 338 名、1942 年 334 名、1943 年 330 名であった [Association Amicale du personnel Indochinois des Résidences du Cambodge. 1938, 1940, 1941, 1942, 1943]。

図表 2 161 名の領外出身者の出身地分布



[C3 ファイル 161 名（参考文献記載）より筆者作成]

図表 2 で扱った史料の行政単位の詳細な確認は、村落単位の併記も散見されるものの、ここでは名称の綴りのみを挙げ、地域の検討や名称の同定は行っていない。また、赴任期間が長期から短期にわたり、正規職員から日雇いまで官吏を一樣に計上したが、出身地の特定に重きを置き区別を設けなかった。グラフからわかるように、出身地域は全国に及び、北部も三件の事例が確認できた。出身の傾向は、メコン流域を中心とする南部ベトナム（コーチシナ）領の各地方に広範な分布をみることができる。総数を見た場合、チャウドックのように国境地域の越境はたやすいものの、メコン川沿いにさらに南下したヴィンロン出身者の事例は、地域的な特徴として注目できよう<sup>11</sup>。

#### 4. 節 ヴィンロン出身者の動向

キイの先行研究では、1938 年のコーチシナからカンボジアへの移民数の出身者内訳の事例が挙げられている。移民 84 人のうち、チャウドック 20 人、サデック

16 人 ロンスエン 8 人、ヴィンロン 8 人、カントー 7 人、ラックザー 5 人、タンチャウ 3 人、ミート 3 名 サイゴン 2 名、以下 9 地域各 1 名と、ヴィンロン省出身者は内訳の 3 位を示していた [Khy 1974 : 104]。

同年設立された、「ヴィンロン出身者相互扶助会」は、設立前の動きをフランス語紙で確認できる。「ヴィンロン出身者グループ」筆の記事「ヴィンロン出身者相互扶助会の設立」は手紙の体裁をとっており、以下のように述べられている。設立に向けた挨拶文の中では「ヴィンロン出身ベトナム人を相互扶助会設立のためにひとつにまとめる呼びかけは、近年の絶え間ない入植者の増加に伴って、多くのプノンペン在住の保護領政府勤務者たち (*par bon nombre de Vinhlongeois employés du Protectrat résidant à Phnom-Penh*) から表明されておりました。この賞賛すべきイニシアティヴはわれらが同胞、商店雇用者、商人、実業家によって新たに分かち合われることとなりました」のように、経済界へ連帯を呼び掛ける構図がよみとれる。また、同会の結束の指針は「サイゴン在住ヴィンロン人会のわれらが同胞たちの結束の幸運な自覚は、私どもによい手本を与えてくださいました。」の記載のように、サイゴンの同郷相互扶助の先例に倣ったものとみられる。連絡先には、理事官府官房のレー・ヴァン・ベン(*Le-van-Bên*)、もしくは理事官府第 4 事務局のフイン・ヴァン・ライ (*Huynh-van-Lai*) の官吏 2 名が名乗りをあげ、早めの連絡を呼びかけたうえ、準備会合では規約の推敲を予定した [*Echo du Cambodge*. 1938. 4. 27] 。

これらの動きに対して、クメール人の反応を新聞記事から見ることができる。「ヴィンロン出身者相互扶助会」、ベトナム南部出身者のさらなる広範な相互扶助をめざす「コーチシナ友愛会」、ベトナム 3 地域とカンボジア在住のベトナム人を包括する設立許可申請中の「越僑相互扶助会」は、そのベトナム人同士の助け合いによってクメール人の職業機会を奪っているとの見地を述べた。また、これら 3 団体の委員会中心メンバーは、保護領政府の全ての部局に勤務する者ばかりで、全てがクメール人を統括する長の地位にあると活動を批判するとともに、領外出身ベトナム人の地域的多様性を認識していた [Nagara Vatta. 1938. 12. 31, 坂本. 2014.1049-1050] 。

## むすびにかえて

1925 年の報告によれば、カンボジアの各理事官府の官吏は、実際にベトナム人が多く登用され、クメール人より比較的高い役職についていた。また、1920 年代中盤には、カンボジア理事官府現地人職員友愛会に多くのベトナム人が参加していたこともわかった。一方、分類 C3 に現存するファイルのうち、出身地が確認できたカンボジア領外出身官吏の出身地はベトナム全土にわたり、ベトナム南部、コーチシナ地方出身者が多数を占め、メコン川流域出身者がカンボジアを志向した傾向をみることができる。

図表 2 に見られるように、ヴィンロン出身官吏は比較的多かったといえ、1930 年代後半のカンボジア都市部において、同郷者連帯の一つの中心性を備えていた。また、「ヴィンロン出身者相互扶助会」が設立された 1938 年には、より広範な地域を抱合する、ベトナム南部出身者を対象とした「コーチシナ友愛会」も設立されている [Amicale Cochinchinoise du Cambodge. 1938]。この両団体の設立は前述の『ナガラ・ワッタ』でも触れられたが、逆説的にはヴィンロン出身者には、さらなる地域的限定性をもった、同郷者の連帯と一定の母体数があったといえる。さらに、ヴィンロン出身者の結社のイニシアティブには、同郷出身の官吏も関与していた。このことは、官吏が移民社会の中で指導的頭角を現し、相互扶助の礎となった一つの事例であった。一方で、同会が、初期クメール人ナショナリズムの論壇で警戒を注がれていたことは、他郷の移民第一世代の模索が、社会的な際立ちを見せた現れともいえよう。

クメール人の言論が批判を向け、植民地政府の示したそれぞれのベトナム人官吏像は、ベトナム人官吏当事者のもつアイデンティティの多様性と比較しても、時に異なる範疇を含みながらも重なりを見せ、都市部の社会的指導層の主要な一員として体现されていた。本稿では詳述しなかったものの、ベトナム人が集った各種の同業者会、同郷者会、相互扶助会の動向は、都市部の新移民たちの主体的な自己発見と、異郷での新しいコミュニティ形成の契機であったであろう。同時に、このことは自ら「他郷のベトナム人」になろうとする日々の実践であり、「誰がカンボジアのベトナム人であるか」という問いの答えの一つであるといえないだろうか。



## 謝辞

本稿は、（財）国際交流基金（現・独立行政法人国際交流基金）「保護領時代カンボジアにおけるフランス統治—ベトナム人官吏リクルート政策を中心に」『平成14年度次世代フェローシップ調査研究報告書』の調査データにさらなる検討を加え執筆した。数回にわたる調査期間には、カンボジア国立公文書館のスタッフの方々にご協力を賜った。調査の実現にここに深く感謝を申し上げる。

## 参考文献

- 天川直子. 2003. 「カンボジアの人種主義—ベトナム人住民虐殺をめぐる—考察—」『国家・暴力・政治—アジア・アフリカの紛争をめぐって—』アジア経済研究双書. No.534. 109—145.
- 岡田友和. 2010. 「フランス植民地帝国における現地人管理制度—インドシナを事例に—」『史学雑誌』. 119 (6). 1—34.
- 傘谷祐之. 2016. 「フランス植民地期カンボジアにおける歴代司法大臣の経歴(1)」『Nagoya University Asian Law Bulletin』名古屋大学法政国際教育協力研究センター (CALE). v.2. 96—107.
- 神田真紀子. 2005. 「保護領時代カンボジアにおけるフランス統治—ベトナム人官吏リクルート政策を中心に」『平成14年度(2002年)次世代リーダーフェローシップ調査・研究報告書』国際交流基金. 15—33.
- 北川香子. 2016. 「カンボジア人書記リー・サム」『南方文化』. 天理南方文化研究会. 49—77.
- 坂本恭章. 2010. 『ナガラワッタ』未完.
- 笹川秀夫. 2006 『アンコールの近代—植民地カンボジアにおける文化と政治』. 中央公論新社.
- 高橋保. 「カンボジアにおけるベトナム問題の現状と歴史的背景：インドシナにおける民族相克の一側面」『アジア経済』. 12(2). 31—59.
- 高橋宏明. 2008. 「フランス植民地期カンボジアの高級官僚像—中央官僚機構における主要閣僚の政治経歴とその特質を中心に—」『中央大学アジア史研究』. (32). 571—593.

松井生子. 2008. 「カンボジアにおけるマイノリティ研究～その位置づけと現状～」  
『民族社会学研究』. 第五号. 73－102.

Câu Lạc Bộ Truyền Thông Kháng Chiến khối Việt Kiều Campuchia Yêu Nước. 2004. Tư  
liệu lịch sử về phong trào Việt Kiều Yêu Nước ở Campuchia. Hà Nội. Nhà Xuất  
Bản Mũi Cà Mau. Cà Mau.

Chandler, David. 2008. “A History of Cambodia” Forth Edition. Chiang Mai: Silkwarm  
Books

Edwards, Penny. 2008. “Cambodge The cultivation of a nation 1860-1945.” Silkwarm  
Books. Chiang Mai.

Goscha, Christper E. 1996. “Récits de voyage vietnamiens et prise de conscience  
indochinoise(c.1920-c.1945)”. *Récits de voyages asiatiques Genres, mentalites,  
coception del'espace” actes du conception de l'espace. Actes du colloque  
EFEO-EHESS de decembre 1994.* École française d'extreme-Orient. 254-279.  
Paris

Khy, Phanra. 1974. “La communauté Vietnamien au Cambodge- A L'Époque du  
Protectorat  
Française (1863-1953). Université de la Sorbonne nouvelle Paris III. Paris.  
1977. “L'immigration Vietnamienne au Cambodge- A L'Époque du Protectorat  
Française (1863-1940)” Chaier de l'Asie du Sud-Est 2. Paris.

Lê, Hương. 1969. “Đời sống Việt Kiều tại Cao Miên”, Sử Địa. Sài Gòn  
1971. Việt Kiều ở Kampuchia. Trí Đăng. Sài Gòn.

Poisson, Emmanuel. 2004. “Mandarans et subalternes au nord du Viet Nam une  
bureaucraie à l'épreuve(1820-1918). Maisonneuve et Larose. Paris.

Sorn, Samnang. 1995. L'évolution de la société Cambodgienne entre les deux guerres  
mondiale (1919-1939) Tome I, II, III. These pour le doctorat d'histoire.  
Université Paris VII. Paris.

政府刊行物、同業者会、友愛会規約

Association Amicale du personnel Indigène des Résidences du Cambodge. 1924. “Statuts” .

Saigon. Imprimerie. J. Viet. (カンボジア理事官府現地人職員友愛会規約)

Association Amicale du personnel Indochinois des Résidences du Cambodge.

1938. “Tableau d’ancienneté du Personnel Indochinois des Résidences au Cambodge.

Année 1938”. Imprimerie Henry. Mme.Quach Hung Successeur. Phnom Penh.

1940. “Tableau d’ancienneté du Personnel Indochinois des Résidences au Cambodge.

Année 1940”. 出版社、出版年不明

1941. “Tableau d’ancienneté du Personnel Indochinois des Résidences au Cambodge.

Année 1941”. Imprimerie Henry. Phnom Penh.

1942. “Tableau d’ancienneté du Personnel Indochinois des Résidences au Cambodge.

Année 1942”. Imprimerie Henry. Phnom Penh.

1943. “Tableau d’ancienneté du Personnel Indochinois des Résidences au Cambodge.

Année 1943”. Imprimerie Henry. Phnom Penh.

Association Cochinchinoise du Cambodge (A.M.I.C.) 1938. “Status”. Imprimerie Henry.

Phnom.Penh.

Mutuelle des originaires de Vinh Long Résidant au Cambodge.1938. “Status”.Imprimerie

Henry. Phnom Penh.

1944. “Status”.Imprimerie Henry. Phnom Penh.

Conseil de Gouvernement de l’indochine session ordinaire 1927 “Discourse prononce le

21 Octobre 1927 par M.Alexandre Varenne Gouverneur Générale l’Indochine.

Hanoi.

#### 新聞記事

Nagara Vatta 紙

Diễn Tín 紙

Cộng Luận 紙

Thời Báo 紙

Echo du Cambodge 紙

La Verité 紙

カンボジア国立公文書館 Archive Nationale du Cambodge (ANC) 史料

RSC.10642 Secrétaires Résidences

カンボジア領外の出身を確認した 161 名の個人履歴ファイル（氏名は筆者省略）

RSC.8229 Dossier personnel de M.Enregistrement de la Correspondance télégraphique.

RSC.7352 Dossier personnel de M.Secrétaire principal.

RSC.7432 Dossier personnel de M.Secrétaire ppal des Résidences.

RSC.12098 Dossier personnel de M.Secrétaire des Résidences.

RSC.7579 Dossier personnel de M.Secrétaire des Résidences.

RSC.7254 Dossier personnel de M.Secrétaire des Résidences.

RSC.7346 Dossier personnel de M. Secrétaire principal

RSC.10973 Dossier personnel de M Secrétaire principal des Résidences en retaire.

RSC.10615 Dossier personnel de M.Secrétaire.

RSC.8301 Dossier personnel de M.Secrétaire principal de 2ème classe.

RSC.8111 Dossier personnel de M.Secrétaire de Résidence à Prey Veng.

RSC.6911 Dossier personnel de M.Secrétaire des Résidences Takéo.

RSC.6999 Dossier personnel de M.Secrétaire titulaire de 2ème classe

RSC.6776 Dossier personnel de M.Secrétaire principal de 2ème classe

RSC.6914 Dossier personnel de M.Secrétaire ppal des Résidences

RSC.6704 Dossier personnel de M.Secrétaires des Résidences

RSC.6578 Dossier personnel de M.Commis indigène

RSC.6712 Dossier personnel de M.Secrétaire des Résidences

RSC.6924 Dossier personnel de M.Secrétaire des Résidences

RSC.10631 Dossier personnel de M.Secrétaire principal de Résidence

RSC.7329 Dossier personnel de M.Secrétaire Principal

RSC.6688 Dossier personnel de M.Secrétaire

RSC.7323 Dossier personnel de M.Secrétaire principal hors classe

RSC.17109 Dossier personnel de M.

RSC.7429 Dossier personnel de M.Secrétaire principal de 2ème classe

RSC.6883 Dossier personnel de M.Secrétaire des Résidences  
RSC.6585 Dossier personnel de M.Secrétaire des Résidences  
RSC.10436 Dossier personnel de M.,Secrétaire  
RSC.6948 Dossier personnel de M.Secrétaire principal  
RSC.6918 Dossier personnel de M.Secrétaire ppal des Résidences  
RSC.7330 Dossier personnel de M.Lettré titulaire de 1ère classe  
RSC.35197 Dossier personnel de M.Secrétaire principal de 2ème classe des Résidences  
RSC.6949 Dossier personnel de M.Secrétaire principal de 1ère classe  
RSC.6577 Dossier personnel de M.Secrétaire principal des Résidences  
RSC.33806 Dossier personnel de M.Secrétaire principal de 1ère classe des Résidences  
RSC.6921 Dossier personnel de M.Secrétaire ppal des Résidences  
RSC.6905 Dossier personnel de M.Secrétaire de 1ère classe  
RSC.6716 Dossier personnel de M.Secrétaire auxiliaire  
RSC.10636 Dossier personnel de M.Secrétaire  
RSC.6758 Dossier personnel de M.Secrétaire principal 2ème classe  
RSC.7491 Dossier personnel de M.Secrétaire des Résidences  
RSC.7426 Dossier personnel de M.Secrétaire auxiliaire de 3ème classe  
RSC.7343 Dossier personnel de M.Secrétaire principal  
RSC.7546 Dossier personnel de M.Secrétaire principal de 3ème classe  
RSC.6461 Dossier personnel de M.Secrétaire auxiliaire de 2ème classe  
RSC.10426 Dossier personnel de M.Secrétaire principal  
RSC.10633 Dossier personnel de M.Secrétaire Résidence de Kompong Thom  
RSC.7484 Dossier personnel de M.Secrétaire des Résidences  
RSC.7321 Dossier personnel de M.Secrétaire Journalier  
RSC.6951 Dossier personnel de M.Secrétaire principal de 4ème classe  
RSC.8294 Dossier personnel de M.secrétaire principal de 2 ème classe des Résidences  
détaché aux services Technique de l'Agriculture  
RSC.12282 Dossier personnel de M.Secrétaire des Résidence  
RSC.12281 Dossier personnel de M.Secrétaire des Résidences  
RSC.10609 Dossier personnel de M.Secrétaire des Résidences

RSC.6916 Dossier personnel de M.Secrétaire ppal des Résidences  
RSC.10688 Dossier personnel de M.Secrétaire Résidence de Takeo  
RSC.6915 Dossier personnel de M.Secrétaire ppal des Résidences  
RSC.6926 Dossier personnel de M.Secrétaire des Résidences  
RSC.6940 Dossier personnel de M.Secrétaire de 1ère classe des Résidences,en service à  
Kompong Thom  
RSC.6042 Dossier personnel de M.admis a la retraite  
RSC.8290 Dossier personnel de M.Secrétaire  
RSC.6521 Dossier personnel de M.Secrétaire des Résidences  
RSC.6522 Dossier personnel de M.Secrétaire principal des Résidences  
RSC.6705 Dossier personnel de M.Secrétaire des Résidences  
RSC.6888 Dossier personnel de M.Secrétaire des Résidences à Kampot  
RSC.7428 Dossier personnel de M.Secrétaire de 4ème classe  
RSC.7350 Dossier personnel de M.Secrétaire de 3ème classe  
RSC.12425 Dossier personnel de M.Secrétaire des Résidences en retraite  
RSC.8113 Dossier personnel de M.Secrétaire de Résidence à Kompong Chhunang  
RSC.RSC.6304 Dossier personnel de M.Lettré principal,en retraite  
RSC.35191 Dossier personnel de M.Secrétaire principal de 3ème classe des Résidences  
RSC.11304 Dossier personnel de M.Secrétaire principal des Résidences  
RSC.6529 Dossier personnel de M.Secrétaire ppal HC des Résidences-décédé  
RSC.6654 Dossier personnel de M.Secrétaire des Résidences  
RSC.10656 Dossier personnel de M.Secrétaire de Résidences  
RSC.6114 Dossier personnel de M.Secrétaire interprète auxiliaire de 2e classe  
RSC.7045 Dossier personnel de M.Secrétaire des Résidences  
RSC.8287 Dossier personnel de M.Secrétaire auxiliaire de 1ère classe  
RSC.10981 Dossier personnel de M.Secrétaire principal des Résidences ,admis à la  
retraite.  
RSC.6041 Dossier personnel de M.Secrétaire Résidences  
RSC.11805 Dossier personnel de M.Secrétaire principal des Résidences décédé  
RSC.6115 Dossier personnel de M.Secrétaire principal hors classe des Résidences

RSC.6519 Dossier personnel de M.Secrétaire principal des Résidences  
RSC.6930 Dossier personnel de M.Secrétaire des Résidences  
RSC.6912 Dossier personnel de M.Secrétaire des Résidences  
RSC.8288 Dossier personnel de M.Secrétaire principal Hors Cadres des Résidences  
RSC.11891 Dossier personnel de M.Secrétaire des Résidences admis à la retraite  
RSC.6312 Dossier personnel de M.Secrétaire des Résidences  
RSC.6113 Dossier personnel de M.Secrétaire principal  
RSC.10613 Dossier personnel de M.Secrétaire de Résidences  
RSC.35194 Dossier personnel de M.Secrétaire principal de 2ème classe à Kg Thom  
RSC.6591 Dossier personnel de M.Secrétaire interprète de Résidence de Pursat  
RSC.10974 Dossier personnel de M.Secrétaire des Résidences.  
RSC.8112 Dossier personnel de M.Commis principal a Battambang  
RSC.10369 Dossier personnel de M.Secrétaire de Résidence  
RSC.6214 Dossier personnel de M.Secrétaire principal des Résidences en retraite  
RSC.7500 Dossier personnel de M.Bibliothécaire-archiviste de la Résidence  
RSC.7584 Dossier personnel de M.Secrétaire des Résidences  
RSC.6576 Dossier personnel de M.Secrétaire principal  
RSC.6777 Dossier personnel de M.Ancien secrétaire des Résidences du Cambodge  
RSC.10441 Dossier personnel de M.Secrétaire à Résidencesupérieur  
RSC.6942 Dossier personnel de M.Secrétaire de 2ème classe de Résidence  
RSC.7326 Dossier personnel de M.Secrétaire de 6ème classe  
RSC.6307 Dossier personnel de M.Secrétaire principal des Résidences, relève de ses  
fonctions  
RSC.6895 Dossier personnel de M.Secrétaire des Résidences  
RSC.7052 Dossier personnel de M.Secrétaire dactylographe  
RSC.10629 Dossier personnel de M.Secrétaire des Résidences  
RSC.6783 Dossier personnel de M.Secrétaire des Résidences  
RSC.6762 Dossier personnel de M.Secrétaire de 6ème classe  
RSC.6303 Dossier personnel de M.Secrétaire des Résidences, relevé de ses fonctions  
RSC.7003 Dossier personnel de M.Secrétaire de 8ème classe

RSC.7488 Dossier personnel de M.Secrétaire des Résidences  
RSC.7486 Dossier personnel de M.Secrétaire des Résidences  
RSC.6919 Dossier personnel de M.Secrétaire des Résidences  
RSC.6784 Dossier personnel de M.Secrétaire stagiaire  
RSC.6455 Dossier personnel de M.Secrétaire de 8è classe  
RSC.6885 Dossier personnel de M.Secrétaire des Résidences à Kandal  
RSC.6038 Dossier personnel de M.Secrétaire des Résidences  
RSC.6651 Dossier personnel de M.Secrétaire des Résidences  
RSC.12120 Dossier personnel de M.Secrétaire des Résidences  
RSC.20154 Dossier personnel de M.Secrétaire des Résidence  
RSC.6886 Dossier personnel de M.Secrétaire des Résidences à Pursat  
RSC.12124 Dossier personnel de M.Secrétaire des Résidences  
RSC.6269 Dossier personnel de M.Secrétaire des Résidences  
RSC.6706 Dossier personnel de M.Secrétaire des Résidences  
RSC.7024 Dossier personnel de M.Secrétaire des Résidences  
RSC.7054 Dossier personnel de M.Secrétaire a la Mairie  
RSC.6923 Dossier personnel de M.Secrétaire des Résidences  
RSC.6431 Dossier personnel de M.Raducteur contractuel de characters chiRSCis à Kampot  
RSC.6037 Dossier personnel de M.Secrétaire des Résidences  
RSC.6571 Dossier personnel de M.Secrétaire des Résidences-décédé  
RSC.6465 Dossier personnel de M.Secrétaire stagiaire  
RSC.6702 Dossier personnel de M.Secrétaire à la Résidence Supérieure du Cambodge  
RSC.12405 Dossier personnel de M.Secrétaire des Résidence décédé  
RSC.12680 Dossier personnel de M.Secrétaire des Résidences démissionnaire  
RSC.12409 Dossier personnel de M.Secrétaire journalier à la Résidencesuperieur  
RSC.6516 Dossier personnel de M.Secrétaire journalier à Prey Veng  
RSC.11315 Dossier personnel de M.Secrétaire journalier à Kompong Cham  
RSC.6500 Dossier personnel de M.Secrétaire des Résidence à Kompong Thom  
RSC.10570 Dossier personnel de M.Secrétaire journalier démissionnaire  
RSC.12656 Dossier personnel de M.Secrétaire journalier à Kompong Speu journalier



démissionnaire

RSC.11294 Dossier personnel de M.Secrétaire journalier à Kompong Cham

RSC.6531 Dossier personnel de M.Secrétaire journalier

RSC.19471 Dossier personnel de M.Secrétaire journalier

RSC.6535 Dossier personnel de M.Secrétaire journalier

RSC.12676 Dossier personnel de M.Secrétaire journalier à Kompong Cham,démissionnaire

RSC.6532 Dossier personnel de M.Secrétaire journalier

RSC.10565 Dossier personnel de Secrétaire journalier démissionnaire

RSC.12637 Dossier personnel de M.Secrétaire journalier à Kandal

RSC.12652 Dossier personnel de M.Secrétaire journalier à Kompong Thom démissionnaire

RSC.6248 Dossier personnel de M.Commis journalier à la Résidence de Kompong Cham démissionnaire

RSC.10569 Dossier personnel de M.Secrétaire journalier à Kompong Cham démissionnaire

RSC.12525 Dossier personnel de M.Secrétaire journalier à Svay Rieng

RSC.12663Dossier personnel de M.Secrétaire journalier au 2ème classe de la Résidences démissionnaire

RSC.6233 Dossier personnel de M.Secrétaire journalier à Svay Rieng démissionnaire

RSC.12655 Dossier personnel de M.Secrétaire journalier au 1ere Bureau de la Résidences demissionnaire

RSC.12672 Dossier personnel de M.Secrétaire journalier au 3ème Bureau de la Résidences démissionnaire

RSC.6140 Dossier personnel de M.Secrétaire journalier des Résidences

RSC.6250 Dossier personnel de M.Secrétaire journalier a la Résidence de Stung Treng – démissionnaire

RSC.19500 Dossier personnel de M.Secrétaire journalier

RSC.19108 Dossier personnel de M.Dactylographe

## 注

- <sup>1</sup> 本稿では、「カンボジア人」「クメール人」の表記については、翻訳による一部の例外を除き「クメール人」とする。また、国名は、「クメール国」の記載もカンボジアと統一している。
- <sup>2</sup> なお、地名・人名は北部ハノイ標準語にならいカタカナ表記した。ただし、地名の Rạch Rá は「ラックザー」とした。キン（ベト）族を主に指すとみなされるアンナ人（annamite）は、本稿では「ベトナム人」とし、現在のベトナム領中部にあたる地域を指す場合は、原語の「アンナム」も使用している。また、「ヴィンロン」を示すクメール語地名、「ロンホー」も「ヴィンロン」とした。
- <sup>3</sup> Indigène の訳語として「現地人」を使用するが、現地住民を指すインドシナ人とほぼ同義とする。
- <sup>4</sup> 「カンボジア領外出身のベトナム人」を指す。
- <sup>5</sup> 原文に従い「カンボジア人」とする。
- <sup>6</sup> 「現地人」はクメールを指すものとみられる。
- <sup>7</sup> カンボジア理事官府現地人職員友愛会との関係は不明。
- <sup>8</sup> Association Amicale du personnel Indigene des Résidences du Cambodge , STATUS Constitution et Modificatif s 1924, Saigon, Imprimerie .J.Viet
- <sup>9</sup> ANC.RSC.10642 スヴァイリエン報告 Note Postale30, Novembre,1927 Residence de Soai Rieng No.105/S.(Reponse a Telegramme No.290-X) 参照。
- <sup>10</sup> 2018 年 2 月現在、744 ファイルが保管されている。また、分類 C3 にはわずかではあるが、個人以外のファイルも含まれている。
- <sup>11</sup> 本稿では、2005 年の初出の量街出身者の分布集計〔神田 2005〕を再検討し、出身地の特定は明らかな文書があるものを主に扱った。